

政務調査研究視察 報告書

日程：平成23年1月12日（水）～1月13日（木）



1月12日 会津若松市
「水道事業の民間委託について」



1月13日 郡山市
郡山市子ども総合支援センター
「ニコニコ子ども館」について



視察参加者： 近藤隆志、小野政明、安形光正、梅村順一
吉口二郎、加藤義幸、築瀬 太

政務調査研究視察 報告書

視 察 日	平成23年1月12日 (火)
視 察 内 容	会津若松市：水道事業の民間委託について
視 察 者	近藤隆志、小野政明、安形光征、梅村順一、吉口二郎、加藤義幸、築瀬 太

福
島
県
会
津
若
松
市

会津若松市の概要：会津若松市は、福島県の西部に位置しており、磐梯山や猪苗代湖など豊かな自然に囲まれた自然景観に恵まれたまちです。江戸時代には志津若松藩の城下町として栄え、筋違いの道路や蔵造りの街並みなどに往時の面影を残す。鶴ヶ城や飯盛山など名所・旧跡が残り、多くの観光客が訪れます。また産業では、酒・漆器などの地場産業、I C 関連先端産業が集積する工業都市でもあります。

面積：383.03 k m² 人口：126,814 人。



<水道事業の民間委託>

民間委託移行の経緯について

会津若松市では、施設の耐震化はある程度進んでいるものの、管路の耐震化率は2.5%と低い状況にあります。今後、老朽管や浄水場の更新に向け、現時点で140億円前後の事業費が必要と試算されています。大多数の市民と事業所が使用する水道水であることから、水道施設の改良更新に掛る財源確保の方策を水道料金改定に求めることは慎重にという考えのもとに、業務の見直しによる経営改善策の実施を図ることを選択されたものです。



民間委託業務の概要と効果について

会津若松市ではこれまでも、検針業務や浄水場の運転管理など委託により経費の節減に努めてきました。ここ数年、第三者委託の導入が広がり、経営改革に成功しつつある事例もあることから、平成20年1月に「会津若松市水道事業経営改善検討委員会」を設置し、第三者委託の導入、料金徴収を含めた包括的業務委託による、さらなる経営効率化の可能性を探るため、導入の可否を検討しました。

検討の結果、委託により、事業サービスの向上、1億3700万円のコスト削減が可能と判断できたことから、導入に向け、委員会が報告書をまとめました。この報告書について「会津若松市水道事業経営審議会」で審議を重ね、これらの経営改善策の実施は妥当であると答申されたものです。当初、検討委員会では全ての業務を包括的に委託することと、料金徴収業務の分離の2案を想定していましたが、審議会からは、「費用対効果、管理監督体制によっては、料金徴収業務の分離が効率的である」との答申を受け、最適な体制として、取水から蛇口までの維持管理と料金徴収関連業務の民間委託を同時期に進めることとした。浄水場運転業務は㈱明電舎、送配水施設の維持管理は会津若松市水道サービス㈱、料金徴収関連業務は㈱ジェネッツにそれぞれ決定し、平成22年度から4カ年で委託されました。

独自のスキームの公募型プロポーザル方式で発注！

- ①「浄水場運転管理業務委託」
- ②「送・配水施設維持管理等業務委託」
- ③「水道料金等徴収業務委託」

の3件同時に公告。

契約は、「浄水場運転管理業務委託」業者と「送・配水施設維持管理等業務委託」業者で設立する **SPC と契約** することとした。

このようなスキームを組むことにより、**浄水管理技術力の高い業者と、管路や配水を熟知している地元業者を、それぞれ評価することができ、市民の理解と安心にもつながった。**

結果的に、浄水場運転管理は、リスク管理の方針と対策、また機械・電気・計装設備保守管理等の技術力を評価し、明電舎を選定。送・配水は、地元の会津若松水道サービスを選択することとした。



〔感想・岡崎市への反映〕

水道は極めて公共的性格が強い事業ではありますが、人口減少、普及率の頭打ち、節水型社会の到来、料金収入は低迷し、今後は大きな収入増は見込まれない状況にあります。将来にわたってサービス水準を確保するために、水道事業体のパートナーとして、民間企業との業務委託の拡大など通じて積極的に育成・活用するとともに、併せて技術の継承を図るべきです。

水は人が口にするものですから、安全性は絶対条件です。コスト削減や財政難などを理由に事業運営がおろそかになり、水の安全性が損なわれることがあってはなりません。人々が安心して使用するためには、水道水は常に安定して供給されなければなりません。

本市における水道事業を取り巻く環境も非常に厳しく、このまま手をこまねいて内在する課題が一举に顕在化するようなことになれば、市民の信頼を失うことは明らかです。

そのためには、適切な施設の維持管理並びの計画的な施設更新や耐震化事業が行われなければなりません。水道事業は地域独占企業であり、適切な料金設定により健全な財政を維持する必要があり、経営の誤りによって財政が破綻し、事業継続が不能となることはあってはなりません。自治体と民間企業との公民連携推進を行うことで水道事業体の運営管理のノウハウを持つ競争力のある民間企業、事業体出資団体等が育っていくことになり、市内に「新しい公共」の担い手が育てば、将来にわたって安全・安定・持続に十分配慮した事業運営を行っていただけるものと強く感じました。

政務調査研究視察 報告書

報告者：築瀬 太

視 察 日	平成23年1月13日（木）
視 察 内 容	郡山市こども総合支援センター「ニコニコこども館」について
視 察 者	小野政明、近藤隆志、安形光征、梅村順一、吉口二郎、加藤義幸、築瀬 太

・ 郡山市について

郡山市（こおりやまし）は、東北地方の南部、福島県中通りのほぼ中央に位置する都市である。旧安積郡および田村郡の一部。人口約33万8千人、面積757k㎡で、中核市に指定されている。東北新幹線の停車駅もあり、東北地方南部の高速交通の要衝として、人・モノ・情報の拠点都市となっている。



・ こども総合支援センター「ニコニコこども館」について

1 概要

平成21年4月1日に郡山市役所の西隣にオープンした「ニコニコこども館」には、郡山市の子育てに関する支援体制が集約されており、子育ての情報・窓口・機能が1箇所に集まったことにより、利用者にとって分かりやすく利用しやすい施設となっている。



2 経過

- 平成17年 4月 施設整備に向けた検討開始
- 平成18年 8月 子育て支援総合施設整備検討委員会設置
- 平成19年 1月 同委員会・市長報告
- 平成20年 3月 都市再生整備計画提出（同年5月計画認定）
- 9月 主体工事着工
- 10月 愛称募集（同年12月 施設名称、愛称決定）
- 平成21年 3月 竣工
- 4月 開所

（検討の段階から子どもや子育て家庭にかかわる市民の方々が参加している）

3 施設

施設は元ホテルの土地建物を廃業とともに市が取得し、耐震補強などを含め補修工事をしている。

建設事業費

総事業費	1, 213, 261千円
内訳 取得費	563, 000千円
実施設計費	16, 769千円
改修工事費	601, 586千円
初度調弁	34, 906千円



特定財源	544, 200千円
内訳 国庫補助金	390, 000千円 (まちづくり交付金)
市債	154, 200千円

1階には、子どもや子育てについて相談する総合窓口とファミリー・サポート・センターの窓口やプレイルームがある。



2階には、子育て支援室があり、一時保育や子育てサロンの受付、児童手当やこども医療費助成の申請窓口となっている。

3階には、工作・昔遊び等の子どもの体験活動ができるこども活動支援室、子どもと高齢者の交流などに利用する世代間交流室（和室）、研修室などがあり、子育てサークルやボランティア活動の拠点として利用されている。



4階には、絵本・児童書等を取り揃えた図書館があり、家庭内で起こる事故防止の参考となる事故予防モデルルーム、読み聞かせの部屋等もある。

5階には、不登校児童や引きこもり児童への支援のふれあい学級、カウンセリング室等が設置されている。



4 運営体制

ニコニコこども館では、行政と子育て支援に関わる民間団体などが協力し、地域全体で子育てを応援する体制。

運営費 78,299千円 (H22当初予算) ※人件費のぞく

管理費 38,854千円

事業費 36,793千円

職員体制

正職37名 事務、保育士、幼稚園教諭、
保健師、歯科衛生士、教諭

嘱託25名 相談員、教諭OB、保育士

臨時30名 保育士、施設管理、事務等



一時保育（委託費990万）、移動サロン（委託費130万）、ファミリーサポート（委託費680万）の事業をそれぞれ郡山市がNPO団体に委託している。

さらに、郡山女子大学短期大学部幼児教育学科と連携し、授業の一環として5月から子育てサロン等のサポートに学生がボランティアとして参加している。



5 市民の反応等

1日約800人の方がニコニコこども館を利用している。

昨年10月で40万人を突破、3月末には延べ50万人の利用が見込まれている。

利用者の方からは、「1箇所ですまざまな子育てサービスを受けられるので利用しやすい」といった声があり、好評のようである。

ニコニコこども館が地域の子育て支援の拠点として定着し、子育てに悩んでいる方が、子どもを遊ばせるつもりで気軽に立ち寄って相談したり、子どもを通じて親同士の交流を広げたりする場となって、より多くの方に利用されることが期待される。

○感想、岡崎市への反映

本市においても、八帖北町の城北保育園の3Fに総合子育て支援センターがあり、この郡山市こども総合支援センター「ニコニコこども館」と同様の事業を行なっているが、規模が大きく違っており、元ホテルの5階建ての建物をまるまる使っていることに、先ず驚かされた。

また、市役所の隣と場所も良く、広々としたエントランスなど元ホテルの建物の良さを生かしており、しかも新築に比べ遙かに安い費用でまかなっており、条件に恵まれているとも言えるが、時を過たず決断した市の対応は、本市も参考にしなければならぬと思う。

子育て支援事業は、本市においても今後ますます必要性が高まるものと考えられるところであり、財政状況厳しき折、費用便益をしっかりと考えながら、推進していかねばならない事業である。



